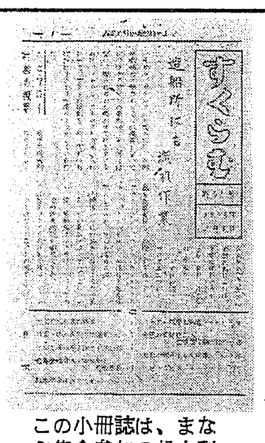
座談会　まなぶにどうこたえるか？

驚いた堂々たる成長

労働者でない市民の参加も



この小冊誌は、まなぶ集会参加の松山利儀さんから贈られたもの。全労組織下の三菱神戸造船でも。

去る五日夕、編集部は五人の人びとに集まっていただいて、〝まなぶ集会〟に参加した若い仲間たちにどうこたえるべきか――ということを主題に、座談会を行った。座談会参加の人びとは、それぞれに尊い教訓をひき出していたし、今後の闘いへの重要な提言ともなっていた。なお座談会には転場・地域から、猿渡宗男さん（宮浦・玉川）、今村俊男さん（四山・四山）、谷田国光さん（三川・楓）、堀田昇さん（本所ひまわり）、江上俊宏さん（四山・大島）らが参加した。

――皆さんのお家や班では、いったいどんな産業や職場の仲間をお世話されたのか、まずそこからおうかがいしたいと思いますが？

江　上　私の家には、国労仙台と大蔵省印刷局（東京）の方に泊っていただきました。特に、大蔵省印刷局からの学ぶ参加者は初めてだとのことで、組合こそあるが、ないものと同じだから、若い者の力で何とかいきいきと動く組合に変えたいというので、やって来たということでした。

結婚後どう運動を続けるか

谷　田　町内に秋田、埼玉、八幡、鹿児島の四人の方がたに泊っていただきました。全逓二人に、ほかの二人の方は中小企業に働く女の人で、その中の一人の娘さんが八幡の人でした。お父さんが学校の先生をしていられるそうで、子どもは自分と姉の二人きりで、その姉の人はずでに親がなっとくした結婚生活にはいっていられる、といった人でした。

その人は、自分はいま労働運動をやっているが、結婚した姉まで親といっしょになってみんなで貢める。それでもやっているがどうすればよいか、この悩みをもってやって来られたわけでした。

もう一人の女の人は鹿児島の人でしたが、すでに結婚している人で、結婚後も引き続き運動をやってゆくにはどうするか、ということを勉強したい、ということでしたが、この人は恵まれた人で、こんどご主人さんというしょに参加しているというので、聞けば、まわりの友だちが結婚してはつぎつぎに運動から離れていってしまう事実を、問題にしとられました。

今　村　私は、うちに二人の人に泊っていただきました。一人は川崎製鉄の人で、組合は全労関係だし、こんどの参加も、会社にも組合にも、さらには現在毎日過ごしている寮にさえ内緒だということでした。

もう一人の人は久留米の人で、家が貧屋をなさっていて、自分自身も家業の手伝いをしているという変った人でした。会社に就職しようと思ったところが目のために不採用になり、その結果ぐれて遊んでいた頃、ふと〝労働大学〟の看板が目につき、これはいいた何だろうと思って飛びこんだところが、みんなで学習会をやっていることを知り、雑誌の〝まなぶ〟をとり初めて勉強するようになったのだそうです。

悩みは、自家が貧屋をやっていること。職場がないこと――というので、地域活動をどう広めるか、それを三池に学びに来たのだということでした。

川崎製鉄の人は、昨年の十一月職制に職場要求をぶっつけていったところが、職制どころか組合からまで「そんな無茶なことをするな」とたたかれ、そのために〝まなぶ〟運動の中にはいっているのだといっていられました。

猿　渡　三人の人に泊っていただきました。東京、新潟、鹿児島の人びと。東京の人は、新聞輸送労働組合の人で、自分は五人組などの組織づくりを勉強に来たといっていられました。新潟の人は三池ではどのようにして主婦会活動が育っていったのか、それを見きわめたいということでした。

三度目の参加者もいた

堀　田　私の地域では全体で十二名、うちには二人泊っていただいたですが。

一人は動力車労組鹿児島の人で二十五才。この人は三十六年にも私の家に泊めた人で、その後三十七年にもやって来て四山関係に泊り、こんどは三度めの参加だったんですよ。

三十六年に泊めた時なんか、すべてにわたってまだたどたどしいだけの人だったのが、こんどは見違えるばかりに成長して来ていて、その堂々たるそぶりにはまったくおどろきました。交流の場に求めて来る内容が、これまたコロっと違って来ている。三池を知り尽している人だけあって、三池を全日本の労働者階級の闘いの砦として、大事に守ってゆくことが自分の一つの義務だ、といっていられるのにはびっくりしました。

もう一人の人は、宮崎県のえびの市役所労組の青年部長さんでした。何しろ過疎が農村で、何かやろうとしても「そげんまで無理せんでよかじゃっか」とすぐおさえられる。それでもやらんならいつまでたっても同じだということで、とにかく三池にやって来たということでした。

稲　本　地域に十名、私の班で二名の方が過ごされましたが、何でも全逓と国鉄の人で初めての参加という人でしたから、とにかく何でも聞いてゆこうという意欲が強うございました。

親孝行から始めては

道は長い、どん座って

猿　渡　私のところに泊めた人も、主婦会といっしょに歩く三池の労働者が明るいとおどろいていたですが、自分の家内が果たしてこのように運動を理解できるか、とてもむつかしい。このように三池では主婦会の人々まで集ってきて話し合いができている。その力はどこからきているのか――とですね。私は玉川地域ですが、三池闘争のとき打ち上げ花火が上がりさえすれば、玉川地域からさえ主婦たちは子どもを背におんぶしてはかけつけていた――つまり身をもって闘いの意義をつかみどっているからではなかろうか。私はそう話したのでしたが。

参加者に見た厳しい規律性

堀　田　こんどやってきた人たちの規律性には、さすがに驚きました。「話はこれくらいにして一パイやりましょう」といっても「いや、自分たちは、やらんようにきまっておりますから」と、絶対口につけようとしないのです。

考えて見ますと「さあ、何でも聞いて下さい。教えてやりますよ」といった、最初のころの姿勢ではも早や通じなくなったんです。

とにかく、①三池闘争時といまの青年部活動のあり方、②文化サークル活動はどうなっているか。合唱詩劇の〝三池の闘い〟は、その後どうなったか。③生活革命運動はどうなっているか。④差別ということの具体的な事実。⑤主婦会活動は、主人がやれというからやれるというはずがない。何がそれを可能にしているのか。⑥三池闘争を経験した子どもたちのその後の生き方は。⑦三池にギターサークルのようなものがあるのにはびっくりした。運動とそれとの関連は――このように、質問が具体的。よほどこっちがしっかりしなければ。

――交流を通じて、心に触れたことが数限りなくあったことと思いますが、とくに考えさせられたことは？

家族ぐるみの明るさに驚く

江　上　国労仙台からやってきた人によりますと、現在の国労にはまさに三池とまったく同じ差別攻撃が加えられ、その上例のマル生運動をテコに組織分裂の攻撃が加えられているので、三池の怒りが肌身を通じてわかるということでした。

それでも、おどろいたのが三池の人たちの家族ぐるみの明るさだった。悩みは同じであるはずなのに、自分たちはどうもそこがかなわん。いったいどこからきているのか、そう聞かれたんですが、三池の自分たちとしてはもうぎりぎりのところまで追いつめられてしまっているのに対し、国労の方はたとえそこに差別があるといっても〝昇格試験〟なんかの制度があって、まだ昇格できる可能性がある、そこではないでしょうかと答えました。何しろ私たちには、そんな道は何一つとしてなく、少し乗りこんでくるというのに、こっちでは、どんな気持で受入れるのか、かんじんなときさえハッキリし得ないままに受入れる。もっと早くから、どういう姿勢で受入れるかという点について十分討議しておくことが必要だとつくづく思っています。

稲　本　たしかに、私の地域でも話し合いのとき受入れについてむつかしい問題もでてきました。そのときCOヨーカンの販売活動に参加していられる松本さん（宮浦）が、このCOヨーカン販売活動について、全国の職場の人々がどれほど暖い気持で協力してくれているか、また、やってくる人々はそんな職場の人々であることを真剣に話され、最後にはやっぱり心から受入れよう、となったのでした。

問題になったまなぶ受入れ

堀　田　事実は、夜遅くまで話の花を咲かせている。やっぱり取り組みに問題があると思いますね。毎年のことが禍いして、計画の実施がすっかり機械的になってしまっている。

向うは、いっさいの準備をして乗りこんでくるというのに、こっちでは、どんな気持で受入れるのか、かんじんなときさえハッキリし得ないままに受入れる。もっと早くから、どういう姿勢で受入れるかという点について十分討議しておくことが必要だとつくづく思っています。

稲　本　たしかに、私の地域でも話し合いのとき受入れについてむつかしい問題もでてきました。そのときCOヨーカンの販売活動に参加していられる松本さん（宮浦）が、このCOヨーカン販売活動について、全国の職場の人々がどれほど暖い気持で協力してくれているか、また、やってくる人々はそんな職場の人々であることを真剣に話され、最後にはやっぱり心から受入れよう、となったのでした。

六月主婦が再来組

早めに受入れ計画を

――さて今後もあることですが、最後に受け入れ体制についてはどうでしょう？

谷　田　率直にいってむつかしくなっています。主婦とはいえ、いまではほとんどそれぞれ職場をもっていますので。

受入れ計画がきまってしまえばもちろんいまでも、学校を卒業させてよそへだしている息子や娘でも帰ってきたように、世話しているのですが。

手紙がこないとおこる前に

今　村　「帰っていったきり手紙もくれんじゃなっか」ということも聞くものですが、私は思うのです。手紙をくれないことに腹を立てるより先に、むしろこっちの方から「その後どげんしよりますか？」と、はげましの手紙をだしてやるくらいの気持をもつべきではないか、と。

堀　田　たしかにその気持がほしい。とくに、すでに、きたる六月には全国から再度主婦の皆さん方が、交流にやってこられることがはっきりしていることでもありますから、とにかくこれからは計画を早めに投げかけていって十分「どう受入れるべきか？」について話し合うことが大切ですよ。

――今度の反省の上に立って、ですね。どうもありがとうございました。今日はいろんな教訓が明らかにされました。それを今後に生かしながら、闘いをさらに発展させていきたいと思います。

おわび

座談会で話しましたことは、たとえば玉川地域分会の活動など外にもございましたが、残念ながら紙面の都合で割愛せざるを得ませんでした。おわびします。

命のためがんばった

三池の子供のその後は？

――主婦会としてはいかがだったでしょう。

稲　本　主婦会の皆さんは、家計をあずかっていなさるので苦しい時もあったでしょうけど、なぜ第二組合にゆかれなかったのですか。そうすると、少しでもお金が余計もらわれたことでしょうに……と、それがやっぱり不思議そうでした。

私はそのとき、申しました――「命を守るためです」と。すると「第二にゆかないことが、どうして命を守ることになるのですか」と聞かれましたので、続けて申し上げました――「主人には先長う働いてもらわなければなりませんので、やっぱり休憩時間もちゃんととって、休を休めるべき時には休んでもらうためにこそ三池労組に残ってきました」と。

谷　田　それに、子どものためにもとくに三池の子どもは、両親の闘いの輪の中で育ってきたし評闘争のときなど、三池の子どもたちはサーッと運動場へ飛び出していたけど。

今　村　今は考えるべき点が出てきています。

今　村　いや三池の子どもも今では質的に変ってきている。悪くなっている面さえある。

堀　田　以前は、日教組の勤

三池労組員の家にくつろぐひまもなく、交流の花が咲く。

谷　田　率直にいってむつかしくなっています。主婦とはいえ、いまではほとんどそれぞれ職場をもっていますので。

受入れ計画がきまってしまえばもちろんいまでも、学校を卒業させてよそへだしている息子や娘でも帰ってきたように、世話しているのですが。

問題になったまなぶ受入れ

堀　田　事実は、夜遅くまで話の花を咲かせている。やっぱり取り組みに問題があると思いますね。毎年のことが禍いして、計画の実施がすっかり機械的になってしまっている。

向うは、いっさいの準備をして乗りこんでくるというのに、こっちでは、どんな気持で受入れるのか、かんじんなときさえハッキリし得ないままに受入れる。もっと早くから、どういう姿勢で受入れるかという点について十分討議しておくことが必要だとつくづく思っています。

稲　本　たしかに、私の地域でも話し合いのとき受入れについてむつかしい問題もでてきました。そのときCOヨーカンの販売活動に参加していられる松本さん（宮浦）が、このCOヨーカン販売活動について、全国の職場の人々がどれほど暖い気持で協力してくれているか、また、やってくる人々はそんな職場の人々であることを真剣に話され、最後にはやっぱり心から受入れよう、となったのでした。

手紙がこないとおこる前に

今　村　「帰っていったきり手紙もくれんじゃなっか」ということも聞くものですが、私は思うのです。手紙をくれないことに腹を立てるより先に、むしろこっちの方から「その後どげんしよりますか？」と、はげましの手紙をだしてやるくらいの気持をもつべきではないか、と。

堀　田　たしかにその気持がほしい。とくに、すでに、きたる六月には全国から再度主婦の皆さん方が、交流にやってこられることがはっきりしていることでもありますから、とにかくこれからは計画を早めに投げかけていって十分「どう受入れるべきか？」について話し合うことが大切ですよ。

――今度の反省の上に立って、ですね。どうもありがとうございました。今日はいろんな教訓が明らかにされました。それを今後に生かしながら、闘いをさらに発展させていきたいと思います。

おわび

座談会で話しましたことは、たとえば玉川地域分会の活動など外にもございましたが、残念ながら紙面の都合で割愛せざるを得ませんでした。おわびします。

親孝行から始めては

道は長い、どん座って

猿　渡　私のところに泊めた人も、主婦会といっしょに歩く三池の労働者が明るいとおどろいていたですが、自分の家内が果たしてこのように運動を理解できるか、とてもむつかしい。このように三池では主婦会の人々まで集ってきて話し合いができている。その力はどこからきているのか――とですね。私は玉川地域ですが、三池闘争のとき打ち上げ花火が上がりさえすれば、玉川地域からさえ主婦たちは子どもを背におんぶしてはかけつけていた――つまり身をもって闘いの意義をつかみどっているからではなかろうか。私はそう話したのでしたが。

参加者に見た厳しい規律性

堀　田　こんどやってきた人たちの規律性には、さすがに驚きました。「話はこれくらいにして一パイやりましょう」といっても「いや、自分たちは、やらんようにきまっておりますから」と、絶対口につけようとしないのです。

考えて見ますと「さあ、何でも聞いて下さい。教えてやりますよ」といった、最初のころの姿勢ではも早や通じなくなったんです。

とにかく、①三池闘争時といまの青年部活動のあり方、②文化サークル活動はどうなっているか。合唱詩劇の〝三池の闘い〟は、その後どうなったか。③生活革命運動はどうなっているか。④差別ということの具体的な事実。⑤主婦会活動は、主人がやれというからやれるというはずがない。何がそれを可能にしているのか。⑥三池闘争を経験した子どもたちのその後の生き方は。⑦三池にギターサークルのようなものがあるのにはびっくりした。運動とそれとの関連は――このように、質問が具体的。よほどこっちがしっかりしなければ。

――交流を通じて、心に触れたことが数限りなくあったことと思いますが、とくに考えさせられたことは？

家族ぐるみの明るさに驚く

江　上　国労仙台からやってきた人によりますと、現在の国労にはまさに三池とまったく同じ差別攻撃が加えられ、その上例のマル生運動をテコに組織分裂の攻撃が加えられているので、三池の怒りが肌身を通じてわかるということでした。

それでも、おどろいたのが三池の人たちの家族ぐるみの明るさだった。悩みは同じであるはずなのに、自分たちはどうもそこがかなわん。いったいどこからきているのか、そう聞かれたんですが、三池の自分たちとしてはもうぎりぎりのところまで追いつめられてしまっているのに対し、国労の方はたとえそこに差別があるといっても〝昇格試験〟なんかの制度があって、まだ昇格できる可能性がある、そこではないでしょうかと答えました。何しろ私たちには、そんな道は何一つとしてなく、少し乗りこんでくるというのに、こっちでは、どんな気持で受入れるのか、かんじんなときさえハッキリし得ないままに受入れる。もっと早くから、どういう姿勢で受入れるかという点について十分討議しておくことが必要だとつくづく思っています。

稲　本　たしかに、私の地域でも話し合いのとき受入れについてむつかしい問題もでてきました。そのときCOヨーカンの販売活動に参加していられる松本さん（宮浦）が、このCOヨーカン販売活動について、全国の職場の人々がどれほど暖い気持で協力してくれているか、また、やってくる人々はそんな職場の人々であることを真剣に話され、最後にはやっぱり心から受入れよう、となったのでした。

六月主婦が再来組

早めに受入れ計画を

――さて今後もあることですが、最後に受け入れ体制についてはどうでしょう？

谷　田　率直にいってむつかしくなっています。主婦とはいえ、いまではほとんどそれぞれ職場をもっていますので。

受入れ計画がきまってしまえばもちろんいまでも、学校を卒業させてよそへだしている息子や娘でも帰ってきたように、世話しているのですが。

問題になったまなぶ受入れ

堀　田　事実は、夜遅くまで話の花を咲かせている。やっぱり取り組みに問題があると思いますね。毎年のことが禍いして、計画の実施がすっかり機械的になってしまっている。

向うは、いっさいの準備をして乗りこんでくるというのに、こっちでは、どんな気持で受入れるのか、かんじんなときさえハッキリし得ないままに受入れる。もっと早くから、どういう姿勢で受入れるかという点について十分討議しておくことが必要だとつくづく思っています。

稲　本　たしかに、私の地域でも話し合いのとき受入れについてむつかしい問題もでてきました。そのときCOヨーカンの販売活動に参加していられる松本さん（宮浦）が、このCOヨーカン販売活動について、全国の職場の人々がどれほど暖い気持で協力してくれているか、また、やってくる人々はそんな職場の人々であることを真剣に話され、最後にはやっぱり心から受入れよう、となったのでした。

手紙がこないとおこる前に

今　村　「帰っていったきり手紙もくれんじゃなっか」ということも聞くものですが、私は思うのです。手紙をくれないことに腹を立てるより先に、むしろこっちの方から「その後どげんしよりますか？」と、はげましの手紙をだしてやるくらいの気持をもつべきではないか、と。

堀　田　たしかにその気持がほしい。とくに、すでに、きたる六月には全国から再度主婦の皆さん方が、交流にやってこられることがはっきりしていることでもありますから、とにかくこれからは計画を早めに投げかけていって十分「どう受入れるべきか？」について話し合うことが大切ですよ。

――今度の反省の上に立って、ですね。どうもありがとうございました。今日はいろんな教訓が明らかにされました。それを今後に生かしながら、闘いをさらに発展させていきたいと思います。

おわび

座談会で話しましたことは、たとえば玉川地域分会の活動など外にもございましたが、残念ながら紙面の都合で割愛せざるを得ませんでした。おわびします。